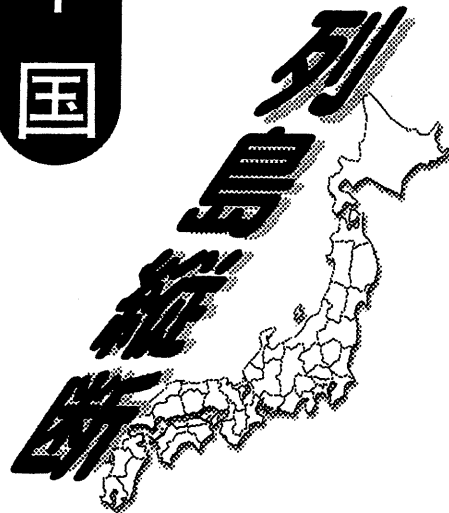


各地の話題—北から南から

中国



児玉 泰州氏
(島根県鐵工会理事長)

島根大学が参画し、島根県が内閣府に申請した「地方大学・地域産業創生交付金事業」に「先端金属素材グローバル拠点の創出—Next Generation TATARA Project」が採択され、同大は産学官連携でたたら製鉄の伝統が残る島根

次世代担う若手に期待

の地に金属素材研究拠点「次世代たたら協創センター」を設立。島根県鐵工会の児玉泰

州理事長も地元産業界を代表する立場で、日立金属関係者ら有識者で構成するコンソーシアム会議に名を連ねている。特殊鋼産業を核として、航空機エンジンの主要部品の生産など、地域産業の高度化を目指す同センターの取り組みに対し、児玉理事長は世代交代・事業継承を控える組合青年部の参画に期待する。「これまで島根県は特殊鋼など鉄のサプライヤーであったが、の営業手段であり、組合員の同センターの試みは県内で最終製品まで作るのが狙い。鉄鋼製品は各工程を含め足が長く、組合員が参画するチャンスがあるのでは。伝統的な自社の事業にプラスして新たな

組合理事長として2015年3月にスタートした機械メンテナンス事業は軌道に乗りつつある。組合企業の保有設備の故障時の復旧や修理、保守点検などを行い、組合内企業にも関連する仕事を仲介するもの。組合企業が設備投資した時期や部品交換時期などをデータベース化も進めている。受注金額が増加し、専門スタッフを増員して体制を強化した。メンテナンス事業を「一番の営業手段であり、組合員の工場設備についてアドバイザーの役に立つことを主軸とす(児玉理事長)として、組合員の重要な事業と位置付けている。」